

# 総務文教委員会

令和2年8月7日（金）  
13時30分～ 時 分  
全員協議会室  
または議会第4委員会室

【委員】 西村委員長、芦谷副委員長  
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】

【議長団】

【総務文教委員会 所管管理職等】

（教育委員会）石本教育長、河上教育部長、猪木迫教育部参事（健康福祉部長）、  
龍河教育総務課副参事（健康福祉部子育て支援課長）、市原学校教育課長、  
村木生涯学習課長、日ノ原総務企画係長、小林総務企画係専門企画員（子育て支援課保育所幼稚園係長）、古城生涯学習係長、仙田指導主事

【事務局】 下間書記

---

【議 題】

1 浜田市における幼児教育の現状について

（取組課題：「こどもの可能性を育む幼児教育について」を踏まえ）

(1) 環境整備について

(2) 現場における人材育成について

(3) 社会教育との関わりについて

2 今後の取組について

3 その他

## — 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性を記載 —

※下線部 主な改訂箇所

**保育所保育指針** 平成29年3月31日告示

## 第2章 保育の内容

## 4 保育の実施に関して留意すべき事項

## (2) 小学校との連携

ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにすること。

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

ウ 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。

**幼稚園教育要領** 平成29年3月31日告示

## 第1章 総則

## 第3 教育課程の役割と編成等

## 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

**幼保連携型認定こども園教育・保育要領** 平成29年3月31日告示

## 第2章 保育の内容

## 4 保育の実施に関して留意すべき事項

## (5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

ア 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにするものとする。

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

## 第1章 総則

## 第2 教育課程の役割と編成等

## 4 学校段階等間の接続 ※今回の改訂により新設

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学校以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

## 第2章 各教科

## 第5節 生活

## 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

※ 生活科以外にも国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても上記と同様の記載がされている。

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿でつなぐ～

平成31年2月  
島根県教育委員会

## 「スタートカリキュラム」編成・実施のために



### ○新学習指導要領における幼稚園・保育所等と小学校との接続について

平成29年3月に告示された小学校学習指導要領の総則において、学校段階等間の接続の重要性が示されました。そこには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と明示され、幼稚園・保育所等と小学校とが、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を通して、より円滑に接続することが大切であることが示されました。

### ○「スタートカリキュラム」とは、どのようなものですか？

小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

「スタートカリキュラム スタートブック」文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月

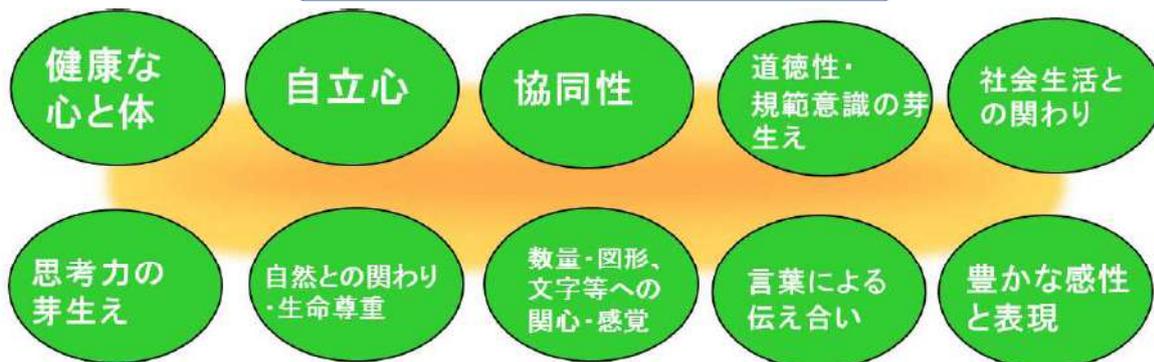
入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められます。

生活科は、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っています。

### ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、どのような姿ですか？

幼児期の教育においては、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした生活を通して、一人一人に応じた総合的な指導を行っています。幼児期の遊びは学びそのものであり、遊びを通して達成感や満足感を味わったり、葛藤やつまずきなどの体験をしたりすることを通して様々なことを学んでいます。こうした日々の遊びや生活の中で資質・能力が育まれている姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として以下のようにまとめられています。是非、幼稚園教育要領等該当部分をご覧ください。

#### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」



### ○「スタートカリキュラム」の編成について

「新幼稚園教育要領のポイント」文部科学省

平成29年3月に告示された学習指導要領の第1章総則第2の4の(1)では、「(前略)特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」として示されました。よって、各学校でスタートカリキュラムを作成していく必要があります。まずは、実態を把握することが必要です。幼稚園、保育所等と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として情報共有を行いましょう。

## ◆◆「スタートカリキュラム」チェックリスト◆◆

### 1. 作成にあたって ～3月までに～

#### (1) 幼児の発達や学びを理解する

- 幼稚園・保育所等への訪問をして、馴染んだ活動や実態の把握につとめましたか？
- 幼稚園・保育所等の教職員と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として情報交換（意見交換・要録等）を行いましたか？

#### (2) 期待する児童の姿を共有する

- 1年担任だけでなく、校内組織を立ち上げスタートカリキュラムを作成しましたか？
- 保護者にスタートカリキュラムの意義等を説明しましたか？
- 実施期間を検討しましたか？



#### (3) スタートカリキュラムをデザインする

- 単元の構成において、体験活動や友達との関わりの重視、児童の意識の流れを大切にしていますか？
- 生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫により、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出そうとする児童の姿の実現を目指していますか？
- 生活科と各教科等との単元の関連が単元配列表に明記されていますか？

#### ○学校教育目標から見た、子どもの成長の姿を週や月の単位で明らかにし、期待する姿を明記している。

- 1年後の期待する姿が考えられていますか？
- 学期ごとの期待する姿が考えられていますか？
- 月のねらい（期待する姿）が一覧に明記されていますか？
- 週のねらい（期待する姿）が一覧に明記されていますか？

#### ○子どもの発達を踏まえ、時間割や学習活動をくふうしている。

- 20分や15分程度のモジュールで時間割を構成するよう工夫していますか？
- 操作や活動のある学習を行う等工夫していますか？



<第1学年 単元配列表(例)> ※あくまで例です。各校の実態に基づき、単元配列表を作成してください。

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	あいうえおであそぼう				
	よろしくね	みつけたよ	はるのあさ	ことばのひみつ	あめのひ
算数	なかまづくりとかず	くらべよう	かずとすうじ	なんばんめ	いくつといくつ
	がっこうだいすき みんななかよし				
生活					おおきなあれ
音楽	うたでなかよし		おんがくにあわせて		
図画工作	すきなものいろいろ	じぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちとあそぼう
体育	からたほぐし	ゆうぐあそび		おにあそび	
道徳	げんきにあいさつ	みんなでつかうもの	ともだちとなかよく	いきものとなかよし	
特別活動	入学式	1年生をむかえる会			
	げんきにあいさつ	たのしいきゅうしよく	おしごとたのしいな		

<月案：作成例> ※あくまで例です。各校既存の入学当初の週案をもとに一覧表を作成してください。

平成〇年度 ☆☆小学校 4月 スタートカリキュラム(月案)

4月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や一日の生活の流れを知り、学校生活に期待感と安心感をもてるようになる。</li> <li>学校にいる人は、皆自分たちを支えてくれることに気付き、学校生活に安心感をもてるようになる。</li> <li>学校の環境に関心をもち、学校に対する愛着を高める。</li> <li>ルールやマナーを守って学校探検ができるようになる。</li> </ul>			月のねらい(期待する姿)を明記します。
週	第1週(4/8~12)	第2週(4/15~19)	第3週(4/22~26)	
週のねらい	安心して登校し、学校での生活の仕方やきまりを知り、意欲的に学校生活をスタートする。	学校の生活のリズムを知り、慣れる。 ・先生や友達を知り、かかわりを広げる。	学校の環境に関心をもち、自分の役割を知り、果たそうと努力する。	
生活科を核とした単元	「たのしい いちにち」 ・学校の一日の生活の流れについて知り、安心感をもって学校生活が送れるようにする。	「がっこう だいすき」 ・学校探検をし、学校の設備、人に関心がもてるようにする。	「がっこう だいすき」 ・探検をして気付いたことや知りたいこと等を出し合い、それについて調べていく。	
学活	・学習のきまりを知り、きまりをまもって学習しようとする。	・給食の準備や片づけ方を知る。 ・給食当番での役割を知り、慣れる。 ・掃除の仕方を知る。	・下校の班が分かり、並んで下校できる。 ・自分たちだけで安全に下校する意識を高める。	
国語	「よろしくね」 ・言葉づかいに気を付けてあいさつをする。 ・友達に知ってもらいたいことを考え、自己紹介をする。 ・ひらがなの書き方を知り、正しく書く。	「みつけたよ」 ・話すときは、「～です。」と最後まで話す。 ・聞くときは手をおろして相手を見て最後まで聞く。 ・正しい鉛筆の持ち方を知り、自分の名前を書く。	「あいうえおであそぼう」 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ・ひらがなの書き方を知り、正しく書く。	
算数		「かずとすうじ」 ・5までの数が表せるようになり、5までの数字を正しく書く。	「かずとすうじ」 ・10までの数が表せるようになり、10までの数字を正しく書く。	
音楽		「うたでなかよし」 ・友達と一緒に、知っている歌を歌ったり、体を動かしながら楽しく歌ったりする。 ・歌を知り、明るく元よく歌う。	「うたでなかよし」 ・友達と一緒に、知っている歌を歌ったり、体を動かしながら楽しく歌ったりする。	

生活科を中心に、各教科等との合科的・関連的な指導となるよう、その関連を一覧表に整理します。



<週案：作成例>

週のねらい	・学校の生活のリズムを知り、慣れる。先生や友達を知り、かかわりを広げる。					週のねらい(期待する姿)を明記します。
日	第6日 4/〇(月)	第7日 4/〇(火)	第8日 4/〇(水)	第9日 4/〇(木)	第10日 4/〇(金)	備考
朝の活動	「なかよくなるう」	「なかよくなるう」	「なかよくなるう」	「なかよくなるう」	「なかよくなるう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れ、教師や友達との関わりを広げるとともに楽しい気持ちで1日が始まるようにする。</li> <li>生活科を中心に、つながりのある教科のねらいを考え合科的・関連的な指導を行う。主体的な学習活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように、2時間続き等の学習活動を位置付ける。</li> <li>5校時は児童の発達の特性に配慮し、具体的な活動を伴う学習活動を位置付ける。</li> </ul>
1校時	・手遊び・お話しして ・お話しして ・歌って踊ろう	・手遊び・お話しして ・お話しして ・歌って踊ろう	・手遊び・お話しして ・お話しして ・歌って踊ろう	・手遊び・お話しして ・お話しして ・本がたくさん	・手遊び・お話しして ・お話しして ・本がたくさん	
2校時	「がっこうだいすき」 ・自己紹介をしよう (国「よろしくね」2/3) ・がっこうのはてなやびつ	「みつけたよ」 ・ひらがな(国2/3) 「くらべよう」・数を比べよう(算1/3)	「みつけたよ」・ひらがな(国2/3)「はるのあさ」 リズムに合わせて読もう(国1/3)	「がっこうだいすき」 ・遊具で遊ぼう (体「ゆうぐあそび」1)	「あいうえおであそぼう」・ひらがな(国2/3) 「はるのあさ」・聞き合おう(国1/3)	
生活科を中心とした学習活動	「はるのあさ」を見つけてよう(生1と1/3)	「はるのがっこう こんにちは」 ・春と遊ぼう(生2)	「10までのかず」 ・数えてみよう(算1)	見つけたものを数えてみよう(算「10までのかず」1)	「10までのかず」 ・絵を見て数えよう ・数字を書こう(算1)	
教科等を中心とした学習活動	「はるのあさ」(国2/3)「なかよくなるう」・みんなで楽しく給食を食べてよう	「はるのあさ」 ・みんなで遊ぼう	「はるのあさ」 ・みんなで遊ぼう	「はるのあさ」 ・みんなで遊ぼう	「はるのあさ」 ・みんなで遊ぼう	
昼						

安心を作る時間

生活科を中心とした学習活動

教科等を中心とした学習活動

弾力的な時間割の設定など、時間の流れなども考えてみましょう

- ・20分や15分程度の短い時間での時間割の構成
- ・2時間続きでの学習活動の設定など

## ○安心して自ら学びを広げる学習環境を整えている。

□子どもが安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるような学習環境の設定について明記されていますか？

～学習環境の設定例～

- 自由に遊べる時間や場所が用意され、自分で活動を選び自分から取り組めるようにする。
- 一日の予定や活動の手順が文字や絵、写真などで提示され、見通しをもち安心して活動できるようにする。
- 入学当初は園と同じような生活空間を意図的につくる。
- 学びの足跡を掲示し、それを見ながら次の活動の意欲を高めたり、自分から進んで活動したりできるようにする。
- 教室の前の掲示や板書はシンプルでわかりやすくし、子どもの混乱を防ぐようにする。



等

□長期の休業（連休・夏季休業等）明けの学校生活への適応について考慮して作成しましたか？

## 2. 実施にあたって ～1年生の入学前に～

□スタートカリキュラムの意義を全教職員が理解していますか？

□スタートカリキュラム スタートブック（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月）に全教職員が目を通しましたか？

□発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成30年4月）に全教職員が目を通しましたか？

□校内の情報共有や共通理解ができていますか？



## 3. 実施にあたって～入学当初～

□学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てていますか？

□入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう学校全体で時間割を調整していますか？

□学級だより・懇談会などで、子どもが学習に取り組む姿をエピソードで保護者に伝えていきますか？

## 4. 実施にあたって～年間を通じて～

□取組がねらいに沿っているか、子どもの姿で日々評価していますか？

～評価例～

- 子どもの姿を週案などに記録する。
- 子どもの書いたものや作品を使って評価する。
- 様々な立場から子どもの様子を捉え評価する。
- 園の先生に参観してもらい評価する。

等



□学年会などで、子どもの成長する姿や指導方法について情報交換していますか？

□職員会議などで、全教職員で実施状況を共有していますか？

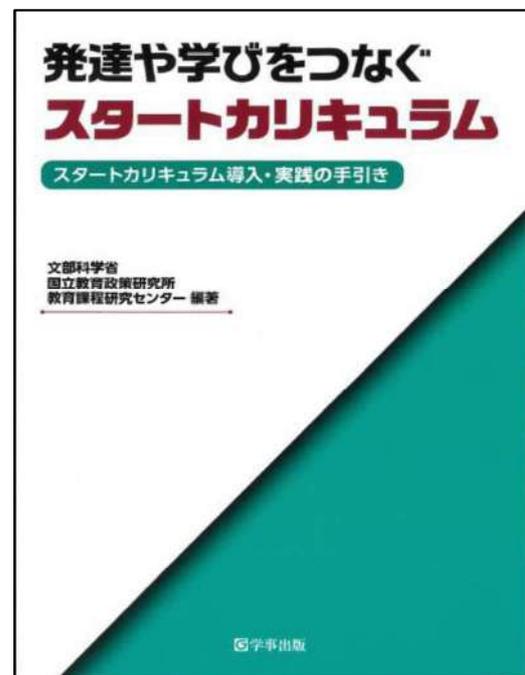
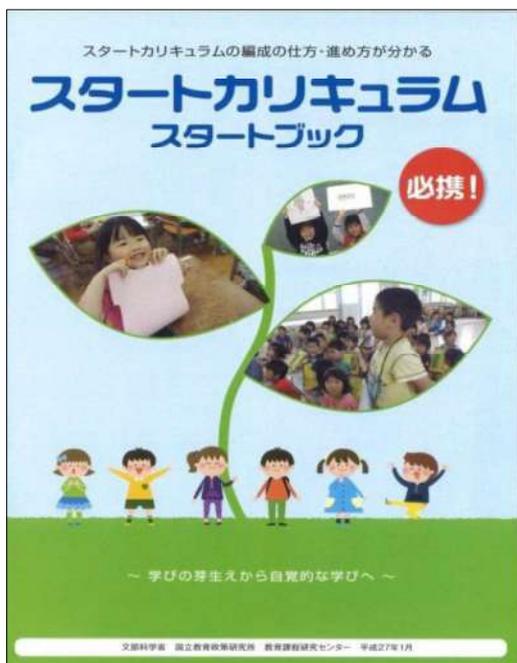
## 5. 次年度に向けて

- 1月から3月にかけて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図っていますか？
- スタートカリキュラムの成果や改善点を整理しましたか？



スタートカリキュラムの編成・実施にあたっては、週案、月案が要件を満たしているだけではなく、その作成の過程での幼稚園・保育所等の教職員との情報交換や、学校内、保護者及び地域の方々との共通理解、環境づくりが重要です。

各校の実態に合わせ、管理職のリーダーシップのもと、編成・実施していきましょう。



### ※参考

スタートカリキュラム スタートブック  
(文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程  
研究センター平成27年1月)

発達や学びをつなぐスタートカリキュラム  
スタートカリキュラム導入・実践の手引き  
(文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程  
研究センター 平成30年4月)

※国立教育政策研究所 HP からダウンロード  
することができます。



とをいろいろなる方法で表現する。(⑥)  
 ○数量や数字、標識などに興味・関心をもち、遊びの中に進んで使おうとする。(⑧)  
 ○並べたりしながら、大小、軽量、長短など特徴に気付いたり、形の違いを意識しながら、(⑧)  
 ○先生や友だちに話したり、お願いしたいことを依頼したりして解決しようとする。

で、言っではいけないことややはいけないことに気付かせ、相手のよさを確かめ  
 を実現するために、言葉で伝える。(⑨)  
 ○し、保育者や友だちと相談しながらも見通しをもって進める。(⑨)  
 ○と楽しかったことを絵で表現する。(⑩)  
 ○目的をもち、遊びの場を作ったり、必要な物を工夫して作ったりする。(⑩)  
 ○たり、工夫したりして取り組んだりして取り組んだりする姿を十分認め、自由な発想でのびやかに取  
 上ようにする。(⑩)

しながら、見通しをもって場や状況に合った行動をする。(①・②)  
 ○伝統的な文化や食に関心をもつ。(②)  
 ○こ取り組み、競い合う楽しさやルールをつくって遊ぶ楽しさを味わう。(②)  
 ○面に気付かせ、お互いを認め合いながら、遊ぼうとする。(③)  
 ○を守り、友だちと遊ぶ。(④)  
 ○ちを向けて、関心をもって最後まで聞く。(④)  
 ○自分で状況に応じて行動しようとする。(④)  
 ○すべきことが分かったり、意欲をもって練習などにも取り組めるようにする。(④)

風邪の予防のための習慣が身に付いてきている。(①)  
 ○ち、生活に必要な習慣やリズムを身に付ける。(ハンカチの使用、午睡なしでの生  
 活)  
 ○自然現象に興味・関心をもち、友だちと様々なことを試したり、気付いたことを伝え  
 プ、かるたなど身近な数量や文字に興味、関心をもち遊びの中に取り入れる。  
 ○通じ、動かすことによって身体が温まることを体験する。(①)  
 ○通じて、入学の期待をもつ。(⑤)  
 ○こ自らかわり、発見したり楽しんだり、考えたり試したりして遊ぶ。(⑥・⑦)  
 ○をもち、それを取り入れて遊んだり、動植物の様子から春の訪れに気付いたりす  
 る。(⑦)  
 ○自然や生き物の変化に気付く。(⑦)

【幼稚園等での配慮】

○まなく、小学校での教育内容や生活を見通した上で、幼児期における教育や保育が  
 習の基盤の育成につながることに配慮し、活動や環境の構成を工夫する。  
 ○して意欲的に取り組みながら自己発揮・自己調整する姿を認め、自信や自己肯定感  
 える。  
 ○クラスの一員としての自分を意識し、1つの目的に向かって友だちと協力しながら  
 成感や充実感を味わえるようにする。  
 ○主えが培われることを踏まえ、興味関心をもって関わったり、発見したり、試行錯  
 するようような豊かな環境を構成する。また、集中役頭したり、最後までやり遂げたり  
 を保障する。  
 ○友だち、上級生との出会いを楽しみにするように、身近な人々へ親しみをもって関

⑥思考力の芽生え  
 身近な現象(輪転機)に関わりながら、物性(質)などを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりする  
 など、多角的に考えようとする。また、友だちの様な考えに熱心の中で、自分と異なる考えがあることに気付く、自分  
 したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするよ  
 ⑧数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚  
 遊び(生活)の中で、数量や図形、標識や文字などに興味が伸張を重なり、標識や文字の役割に気付いたりし、自ら必要感に基づ  
 きこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。  
 ⑨言葉による伝え合い  
 先生や友だちと共通の場の中で、絵本や物語などを読みながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなど  
 を言葉で伝えたり、相手聴きを通して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。  
 ⑩豊かな感性と表現  
 心を動かす出来事などに敏感に働きかける中で、様々な素材の精緻な表現の仕方などに気付かせ、感じることや考えたことと自分で  
 表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

②自立心  
 身近な環境に主体的に関わり様々な活動をを楽しむ中で、しなはばらないことを自覚し、自分の力で行動に考えたり、工夫  
 したりしながら、諦めずにやり続けることや達成感を味わい、自信をもって行動できるようになる。  
 ③協同性  
 友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、共通  
 をもってやり続けるようになる。  
 ④道徳性・規範意識の芽生え  
 友だちと様々な経験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返りたり、友だちの気持ちに共感したりし、  
 相手の立場に立つて行動するようになる。また、ままりを守る必要性が分かり、自分の気持ちや言葉を調整し、友だちと折り合いを付けなが  
 ら、ままりをつくり守ったり守り続けるようになる。

①健康な心と体  
 幼稚園生活の中で、言葉をもつて自分のやりたいことに向かうことと他と心が動かし、見通しをもって行動し、自ら健康な生  
 活を送るようになり、  
 ⑤社会生活との関わり  
 家族や友だちよりよき関係を築くことも、地域の人と協力し合う中で、人との様々な関わり方に気付かせ、相手の気持ち  
 を考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に関心をもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に慣れる中で、遊や  
 生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報と伝え合ったり、活用したりするなど、情報と立ちながら活動するよ  
 うになることにも、公共の施設や大いに利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。  
 ⑦自然との関わり・生命尊重  
 自然に触れて活動する体験を通して、自然の姿などを観察したり、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事  
 象への関心が高まることにも、自然への感謝や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物の姿を動かされる中で、生命の不思議  
 さや導きを感じ、身近な動植物への敬意や思いやりを、命の大切さ、命の大切さを感じながら育ちあふようになる。

⑥安全に気を付けて学校生活を送ることができる。(①)  
 ○運動遊びや休み時間などの外遊びを通して、のびのびと行動することができる。(①)  
 ○相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむことができる。(⑤)  
 ○学校マップなどの掲示物を活用し、学習に必要な情報を見付けられる。(⑤)  
 ○自分たちの生活に関わりのある地域の人に進んで挨拶をする。(⑤)  
 ○自然の事物や現象について関心をもち、積極的に関わることができる。(⑤)

【小学校等での配慮】

○幼稚園、保育所、小学校の教職員がそれぞれの生活の流れや取組を理  
 解し、共有しながら子どもの育ちと学びをつなぐように心がける。  
 ○子ども一人一人の発達や特性を理解するため、入学前に丁寧な引継  
 ぎを行うとともに入学後も連携する。  
 ○幼児と児童の交流が互恵的で継続的な取組になるようにデザインす  
 る。また、幼児の小学校への期待感や、児童の成長の成長の実感や喜びを大  
 切にする。  
 ○参観や公開日、交流会を活用して子どもたちの姿について話し合い、幼稚  
 園、保育所、小学校の相違点や共通点についても理解しあう機会にす  
 る。  
 ○要録の記入、受け取りを通して、支援方法や成長の確認をする。

◆学習に興味や関心をもち、疑問に思ったことに対して主体的に解決しようとする。  
 ◆数量や図形、標識や文字などを使った学習に関心をもって取り組むことができる。(⑨)  
 ◆学習の中で発見したことを言葉で表現することができる。  
 ◆音楽や造形、身体による表現など、自分の気持ちや考えを、表現すること

◆自分でできるときは自分でしようと積極的に取り組んだり、生活や学習で  
 する。(②)  
 ◆集会活動など目的に向かって、自分の力を発揮しながら友だちと協力して  
 ◆相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりすることを通し  
 ルを守ったりして学校生活を楽しくしようとす。(④)

◆安全に気を付けて学校生活を送ることができる。(①)  
 ◆運動遊びや休み時間などの外遊びを通して、のびのびと行動することができる。(①)  
 ◆相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむこ  
 ◆学校マップなどの掲示物を活用し、学習に必要な情報を見付けられる。  
 ◆自分たちの生活に関わりのある地域の人に進んで挨拶をする。(⑤)  
 ◆自然の事物や現象について関心をもち、積極的に関わることができる。(⑤)

【小学校等での配慮】

★幼稚園等で作成された要録、個別の指導計画等を熟読し、一人一人の実態  
 感じ全校の協力体制のもと取り組む。  
 ○新しい環境の中で、子どもたちが安心して過ごせるように配慮し、これま  
 に生かすようにする。また、学ぶことを「楽しい」と感じ、その中で「わか  
 で自信をもてるように工夫する。  
 ○幼児期から児童期が「学びの基礎の育成」の時期であり、「学びの芽生え」  
 る時期であることを踏まえて指導する。また、遊びを通して総合的に指導  
 育の連続性・一貫性を図るようになる。  
 ○遊びを通しての学びが保育や学習へと滑らかに接続できるように、体験活  
 ○一人一人の生活習慣や学習への取組について、家庭と連携しながらきめ細  
 に、クラスや学年の集団としても高めようとする。  
 ○体力、時間の取組、生活リズム、生活習慣などの時間配分の工夫、生活科

## 10の姿から考えるアプローチカリキュラム【記載例】

① 健康な心と体		
園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。		
	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p>学 び の 芽 生 え</p> <p>年 長 児 の 後 半</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす様々な活動に自分なりに目標をもって挑戦したり、困難なことにつまづいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたりする。</li> <li>・生活の流れや状況の変化などを予測して、準備や片付けを行うなど、保育者の助けを得ながら見通しをもって園生活を送る。</li> <li>・5～6人で自分たちで遊び方やルールを考えたり、守ったりして遊ぶ。</li> <li>・自分で排泄や始末ができるようになり、和式のトイレも使えるようになる。</li> <li>・自分の持ち物を大事にしたり、ロッカーや道具入れなどに片付けたりするようになる。</li> <li>・自分で衣服を着脱し、活動により体操服やパジャマに着替えたり、暑さや寒さによって衣服を調節したりしようとする。</li> <li>・病気の予防に関心をもち、体の不調があれば身近な大人に知らせることができる。</li> <li>・避難訓練などを通し、災害時や非常時に自分の身を守ろうとする。</li> <li>・右側通行、信号の見方、横断歩道の渡り方、道路の横断の仕方など身近な交通ルールが分かって守ろうとする。</li> <li>・周囲の安全に気を付けて行動する。</li> <li>・いろいろな食べ物に親しみ、苦手な食材もがんばって食べようとする。</li> <li>・クラスの友達と一緒に楽しく食べる。</li> <li>・野菜を育て収穫したり、料理してもらって食べたりし、食べ物に関心をもち栄養などにも気付くようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの目的を見つけ、取り組むことができるよう、一人一人の育ちや課題に合わせて関わる。</li> <li>・遊びに使う遊具や用具を子どもたちが自分で出し入れできるように準備したり、力いっぱい体を動かす気持ちよさや楽しさを感じたりできるようにする。</li> <li>・基本的な生活習慣では、個人差を考慮して保護者への啓発を行い、家庭の実態に応じた取組を考えていく。</li> </ul>
<p>自 覚 的 な 学 び へ</p> <p>一 年 生 入 学 当 初</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がやりたいと思うことを自己決定し、意欲的に取り組んだり、達成感を味わったりする。</li> <li>・運動遊び(体育)でめあてに向かって継続的に取り組んだり、友達と競い合ったりして、休み時間などに思いきり体を動かして遊ぶ。</li> <li>・次の時間の活動を考えて準備したり、時計を意識して活動したりするなど、一日の生活に見通しをもって行動する。</li> <li>・体操服や水着の着替えなど、衣服の着脱が自分でできる。</li> <li>・手洗い・うがい・汗拭きや食事、排泄などを必要性を意識して自分で行い、健康に気を付けて生活する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で、児童が自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びになるように留意する。</li> <li>・安全に安心して遊べる場所を確保する。</li> <li>・児童自らが活動や学習の見通しをもてるよう、黒板に掲示したり、継続的に取り組めるようゆとりをもった時間を確保したりするなどの支援をする。</li> </ul>

## ② 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p style="color: green;">学びの芽生え</p> <p style="color: green;">年長児の後半</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れが予測できたり、周りの状況を感じ取ったりして自分で行動できるようになる。</li> <li>・日直活動を1～5人で行い、朝の会や帰りの会を進めるなどして達成感を得る。</li> <li>・異年齢児の世話や手伝いをして、自分が頼りにされる人の役に立つことを実感する。</li> <li>・自分のことは自分でやろうとし、できないときには先生や友達の助けを借りて自分でやり遂げようとする。保育者の励ましや促しがほしい時もある。</li> <li>・いろいろな活動や遊びで、失敗しても諦めずに自分の力でやり遂げた満足感や達成感をもつようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの課題を見つけたり、繰り返し挑戦したり、最後まで頑張ろうとする姿を認め、充実感や満足感が味わえるようにする。</li> <li>・小学校生活に期待が高まる反面、不安をもつ子どももいる。生活面や友達への関わり、いろいろな運動遊び、用具の使い方など一人一人の状況を把握し、具体的に関わる中で自信をつけていく。</li> <li>・異年齢児と接する中で、自分自身の成長を感じられたり、人の役に立つ喜びを感じられたりするなど自信をもって行動するようにしていく。</li> </ul>
<p style="color: green;">自覚的な学びへ</p> <p style="color: green;">一年生入学当初</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の当番の仕事に対して、活動する時間帯を考えたり、活動の仕方を工夫したりしながら取り組む。</li> <li>・自分の意見を先生や友達に進んで発表する。</li> <li>・分からないことや難しいことがあれば先生や友達に聞いたり、できている子をモデルとしてまねたりしながら取り組む。</li> <li>・生活や学習での課題を自分の課題として受け止めて、意欲的に取り組んだり、最後まで諦めずに取り組んだりしようとする。</li> <li>・先生や友達との生活や、地域の人との関わりの中で、自分でできることは自分でやろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が幼児期の経験を生かして自己を発揮しながら活動できるように、保幼小連携により、幼児期の育ちを把握し、児童にこれまでの経験を振り返る機会を設けたり、尋ねたり、任せたりする場面を意識して取り入れる。その際、達成感や成就感を味わえるよう、実態に応じた支援を行う。</li> <li>・児童の学級や学校生活の課題解決に向けての積極的な取組や、ねばり強い取組に対し共感的に評価する。</li> </ul>

### ③ 協同性

友達との関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p>年長児の後半 学びの芽生え</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。</li> <li>・友達と一緒に遊びを考えたりルールを作ったりして楽しく活動できるようになる。</li> <li>・自己主張がぶつかりけんかになったり、思いや考えが違っていると感じる経験をしたりしながら、だんだんと自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、葛藤したり、折り合いをつけて気持ちを切り替えたりして遊びを進めていくようになる。</li> <li>・友達との関わりを通じて、互いのよさを分かり合い、楽しく遊びや生活を進めていこうとする。</li> <li>・クラスで共通の目的をもって話し合ったり役割を分担したりするなど実現に向けてやり遂げようとする。</li> <li>・劇遊びで、同じ役の友達と、お面や小道具などを考えたり描いたり作ったりする。思いがぶつかりその都度活動が止まってしまうこともあるが、自分のことだけでなく友達のことも考えて進めるよう援助していく。(11月下旬～12月下旬)</li> <li>・友達と協力し、必要なときには集団行動がとれるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていけるように見守ったり投げかけたりする。またいざこざが起きた時は、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。</li> <li>・一人一人が力を発揮して目的をもち、実現できるように、一緒に考えたり、クラスで気持ちを合わせたりしていく機会をもち、意欲や自信へとつなげていく。</li> <li>・友達の得意なことや知っていることを学級で認め、遊びや生活の中で自信をもって力を発揮できるようにする。</li> </ul>
<p>一年生入学当初 自覚的な学びへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数グループで自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりする。</li> <li>・同じ目的に向かってグループや学級全体で取り組む中で、互いの存在やよさに気づき、仲間と一緒に活動することの楽しさを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初は、児童の人間関係(出身園が同じ、家が近所など)に配慮したグループを組織し、活動の広がりとともに、人間関係が広がるような活動を取り入れる。</li> <li>・友達などとの協力による活動のねらいの達成や、学級、学校生活の課題解決に向けて、話し合ったり、みんなの考えをまとめたり、実際に活動したりする中で、満足感や充実感、連帯感が味わえるようにする。</li> </ul>

#### ④ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p>学 び の 芽 生 え</p> <p>年 長 児 の 後 半</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間意識ができ、一緒に過ごす中で、友達のよさに気付く。</li> <li>・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。</li> <li>・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。</li> <li>・友達の気持ちに気付いたり、折り合いを付けたりし、自分の気持ちを調整できるようになる。</li> <li>・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。</li> <li>・クラスのみんなど心地よく過ごしたり、より遊びを楽しくするためのきまりがあることが分かり、守ろうとしたりする。きまりを必要に応じて作り替えたり、新たにつくったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の様々な出来事について一人一人の気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて内容に応じて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりしていく。</li> <li>・子ども同士のいいところ探しにつながるように、保育者も子どものよさを言葉にして伝えていき、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。</li> <li>・友達やクラス全体で協働する楽しさや、充実感を味わえるような機会をつくり、クラスの一人一人が大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを感じ取れるようにする。</li> </ul>
<p>自 覚 的 な 学 び へ</p> <p>一 年 生 入 学 当 初</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と過ごす中で、自分の言動を振り返り、自分の気持ちや行動を調整する。</li> <li>・友達と意見の違いがあっても、相手の気持ちを考え理解しようとする。</li> <li>・学校のきまりやルールは、みんなが楽しい学校生活を送るために必要であることを理解し、自分たちできまりを考えることができる。また、そのきまりを守ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～しましょう」「～はしません」と教師が一方的に指導するのではなく、幼児期の経験を引き出しながら、「できることは何か」「どうすればよいか」「どのようなルールが必要か」等の話合いからきまりをつくっていくようにする。</li> <li>・生活や学習をする上で、友達と心地よく過ごす経験を十分に味わい、より楽しく生活したり、学習したりするために必要なきまりやマナーについて考える機会を設ける。また、それらのことについて考えたり、実現したりしている児童を積極的に評価する。</li> </ul>

## ⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">学 び の 芽 生 え</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">年 長 児 の 後 半</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する。</li> <li>・機会を捉えて外国の人や文化に触れ合い、親しみや関心をもつようになる。</li> <li>・地域のお店に買い物に出かけたり、一人暮らしのお年寄りに手紙を書いたりし、関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。</li> <li>・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。</li> <li>・公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場所であることがわかる。</li> <li>・親や祖父母など家族から愛されていることに気付き、家族を大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から地域や地域の方との交流を大切にし、園にとって地域が重要な役割を持っていることを知ってもらい、様々な情報や機会を得られるようにしていく。</li> <li>・祖父母や地域の方が園や子どもたちの存在を大切に思ってくれることなどを折に触れて子どもたちに伝え、喜びとして感じられるようにする。</li> <li>・就学時健診や小学生との交流などを通して、小学校生活を身近に感じ、期待をもてるようにする。</li> <li>・一人一人が自信と誇りをもって就学を迎えられるように、不安を感じている子どもには特に配慮していく。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">自 覚 的 な 学 び へ</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; color: green;">一 年 生 入 学 当 初</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と過ごす中で、自分の言動を振り返り、自分の気持ちや行動について考える。</li> <li>・友達と意見の違いがあっても、相手の気持ちを考え理解しようとする。</li> <li>・学校のきまりやルールは、みんなが楽しい学校生活を送るために必要であることを理解し、自分たちできまりを考えることができる。また、そのきまりを守ろうとする。</li> <li>・友達や周りの人の思いや願いを意識して、自分のできることを実行しようとする。(例:調理士さんの給食に対する思いを知り、残さず食べようとする。)</li> <li>・登下校の安全を見守ってくれる地域の方々の存在に気づき、感謝の気持ちをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校などで公園などの公共の場所やスーパー、「こども110番」の掲示のある家があること、地域のイベントなどから自分たちの生活と地域が関わり合っていることを知る。また、その中で地域の人々の支え合いなどへの気付きを大切ににする。</li> <li>・家族や先生、地域の人との温かい人間関係を学級や学校生活に生かしている場面を認める。</li> <li>・子どもたちの安全や学校生活を見守ってくれる地域の方との出合いを仕組み、繰り返し関わることで、児童の身近な地域の方への思いを深められるようにする。</li> </ul>

## ⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組み等を感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

	子どもの姿	指導する上で大切にしたいこと
<b>学</b> 年 <b>び</b> 長 <b>の</b> 児 <b>芽</b> の <b>生</b> 後 <b>え</b> 半	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、より遊びが楽しくなるように、必要な物や場、役割などを考えて遊ぶようになる。</li> <li>・今までの経験を生かして見通しをもったり、自分なりのこだわりをもったりして遊びを進めるようになる。</li> <li>・友達の考えに触れる中で、自分の思いや考えを考え直したり、新しい考えを生み出そうとしたりする。</li> <li>・身近な物や用具などの使い方を知り、性質を知って、イメージを膨らませたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら遊びに取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで遊びの計画を立てたり、目的をもって取り組めたりできるよう、必要な用具や素材を十分に準備し、じっくり関わる時間や空間を大切にし、子どもたちで探したりして、イメージに合った環境をつくっていけるようにする。</li> <li>・自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞こうとしたり、お互いのよさを見つけ、認め合いながら、一人一人の存在が生きる仲間づくりを考えていく。</li> <li>・思い通りにならない時も、別のやり方を考えたり、やり直したりして自分でやり遂げるよう、子どもに応じた関わりをする。</li> <li>・すぐに答えを出したり、導いたりするのではなく、子ども自身が気付いたり、おもしろいと感じることを受け止めたり、共感したりする。</li> </ul>
<b>自</b> 一 <b>覚</b> 年 <b>的</b> 生 <b>な</b> 入 <b>学</b> 学 <b>び</b> 当 <b>へ</b> 初	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に興味・関心をもち、自ら試したり、本で調べたりしながら、じっくりと考える。</li> <li>・友達の発言を聞く中で、自分の考えとの違いに気付き、友達の発言のよさを認めて自分の考えに取り入れる。</li> <li>・学校探検などで学校にあるものや人の存在に気づくとともに、疑問に思ったことを自分なりにたしかめようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の自然を利用して遊んだ経験等を生かしたり、児童同士の意見交流の場を取り入れたりしながら、児童の探究心や好奇心を引き出すような状況をつくと共に、児童の「こうしてみたい」という願いをもたせるようにする。</li> <li>・児童の願いの実現に向けて、調べたり、試したりできる場(物的環境、時間、空間)を用意する。</li> </ul>

